

2022年度 決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

ZEON

2023年4月26日
日本ゼオン株式会社

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異

- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要

- P.24 2023年度 事業環境
- P.26 2023年度 業績予想
- P.27 2023年度 配当金予想

【総括】

- ◆ Q4連結実績は対前年同期で増収減益、対前期で減収減益
- ◆ 原料価格は国産ナフサ下落、アジアブタジエン上昇、為替は円高に推移
- ◆ 経済不況により需要は低迷し、総じて市況は振るわず

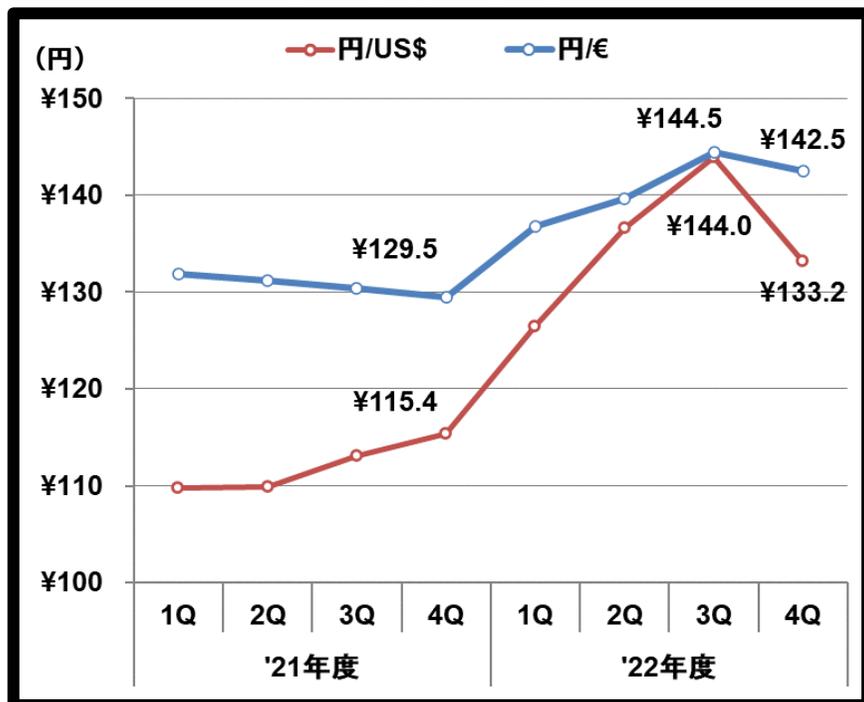
【エラストマー素材の概況】

- ◆ 主原料価格に応じた販売価格の改定、為替の影響等により、YoYは増収減益、QoQは減収減益
- ◆ QoQで出荷量は上向くも、市況は精彩を欠く

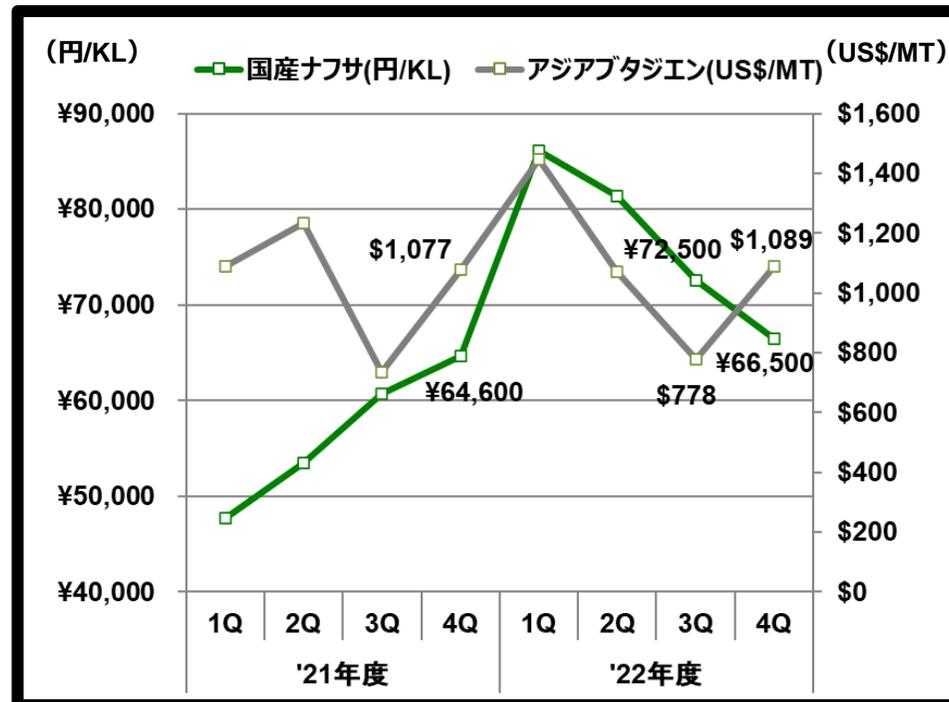
【高機能材料の概況】

- ◆ 電池材料の売上高は顧客在庫調整により減少するも、連結調整の影響で横ばい。YoYは大型フィルムの出荷減で減収、QoQは高機能樹脂を中心に出荷量が増え売上高は増加するも、収益認識基準の調整で減収
- ◆ エネルギー価格および新規開発費用の増加等によりYoY・QoQともに減益

【為替推移】



【主原料推移】



		2021年度 Q4	2022年度 Q3	2022年度 Q4	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥115.4	¥144.0	¥133.2	+15%	▲7%
	円/€	¥129.5	¥144.5	¥142.5	+10%	▲1%
主原料	国産ナフサ/KL	¥64,600	¥72,500	¥66,500	+3%	▲8%
	アジアブタジエン/MT	\$1,077	\$778	\$1,089	+1%	+40%

※国産ナフサ：2021年度Q4及び2022年度Q3は確報値、2022年度Q4は当社見込値

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
- P.5 業績サマリー（全体）**
- P.6 業績サマリー（セグメント別）**
- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異
- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要
- P.24 2023年度 事業環境
- P.26 2023年度 業績予想
- P.27 2023年度 配当金予想

(単位：億円)

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2021年度 通期	2022年度 通期	対前年 同期比
	2021年度 Q4	2022年度 Q3	2022年度 Q4	YoY 増減	QoQ 増減			
売上高	930	968	944	+14	▲24	3,617	3,886	+269
営業利益	80	77	▲7	▲87	▲83	444	272	▲173
経常利益	103	67	3	▲100	▲64	495	314	▲181
当期純利益	60	9	▲77	▲138	▲86	334	106	▲228

- 前年同期比 : 売上高 +14億円、営業利益 ▲87億円
- 前期比 : 売上高 ▲24億円、営業利益 ▲83億円
- 通期対前年度比 : 売上高 +269億円、営業利益 ▲173億円

注記：海外関係会社の2022年10～12月実績がQ4連結決算に反映されています。

(単位：億円)

【売上高】	2021年度 Q4	2022年度 Q3	2022年度 Q4	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	526	559	549	+23	▲10
高機能材料	265	249	239	▲26	▲11
その他の事業、消去等	139	159	157	+18	▲3
売上高合計	930	968	944	+14	▲24

【営業利益】	2021年度 Q4	2022年度 Q3	2022年度 Q4	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	27	29	▲20	▲47	▲49
高機能材料	60	49	18	▲42	▲31
その他の事業、消去等	▲6	▲1	▲4	+2	▲3
営業利益合計	80	77	▲7	▲87	▲83

2022年度 業績サマリー (セグメント別)

(単位：億円)

【売上高】

	2021年度 通期	2022年度 業績予想 (1/31時点)	2022年度 通期	対前年 同期比	対業績 予想比	対業績 予想比率
エラストマー素材	2,006	2,205	2,222	+217	+17	1 %
高機能材料	1,068	1,050	1,054	▲ 14	+4	0 %
その他の事業、消去等	544	615	610	+67	▲ 5	▲ 1 %
売上高合計	3,617	3,870	3,886	+269	+16	0 %

【営業利益】

	2021年度 通期	2022年度 業績予想 (1/31時点)	2022年度 通期	対前年 同期比	対業績 予想比	対業績 予想比率
エラストマー素材	186	100	102	▲ 84	+2	2 %
高機能材料	264	190	183	▲ 81	▲ 7	▲ 4 %
その他の事業、消去等	▲ 6	▲ 11	▲ 13	▲ 8	▲ 2	18 %
営業利益合計	444	280	272	▲ 173	▲ 8	▲ 3 %

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

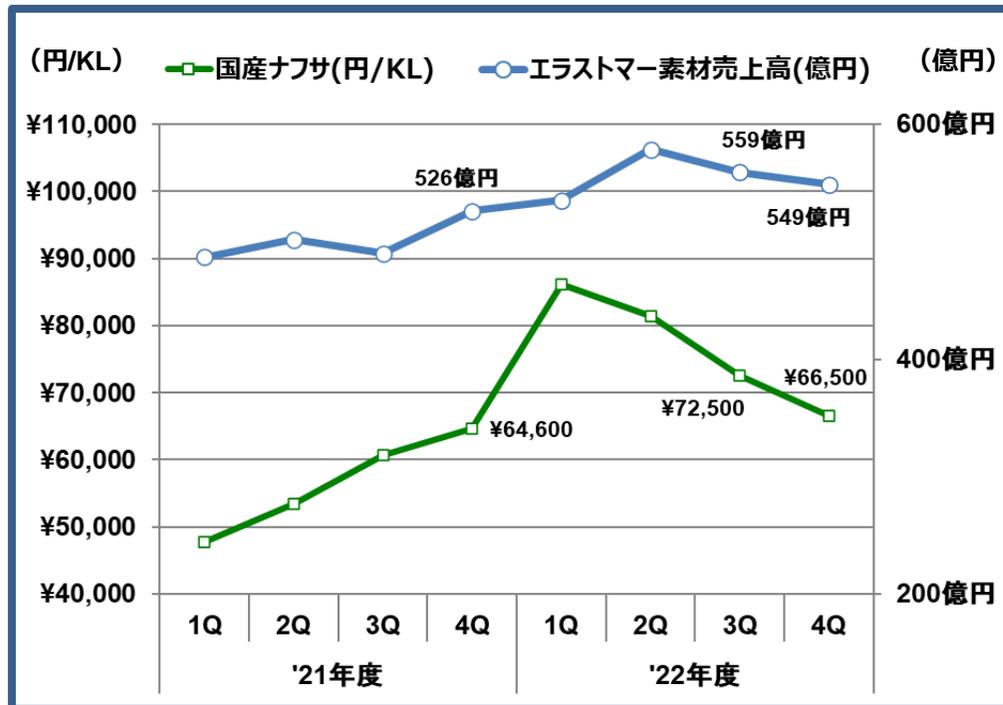
- P.9 **エラストマー素材 概況**
- P.10 **エラストマー素材 P/L**
- P.11 **エラストマー素材 営業利益差異**

- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

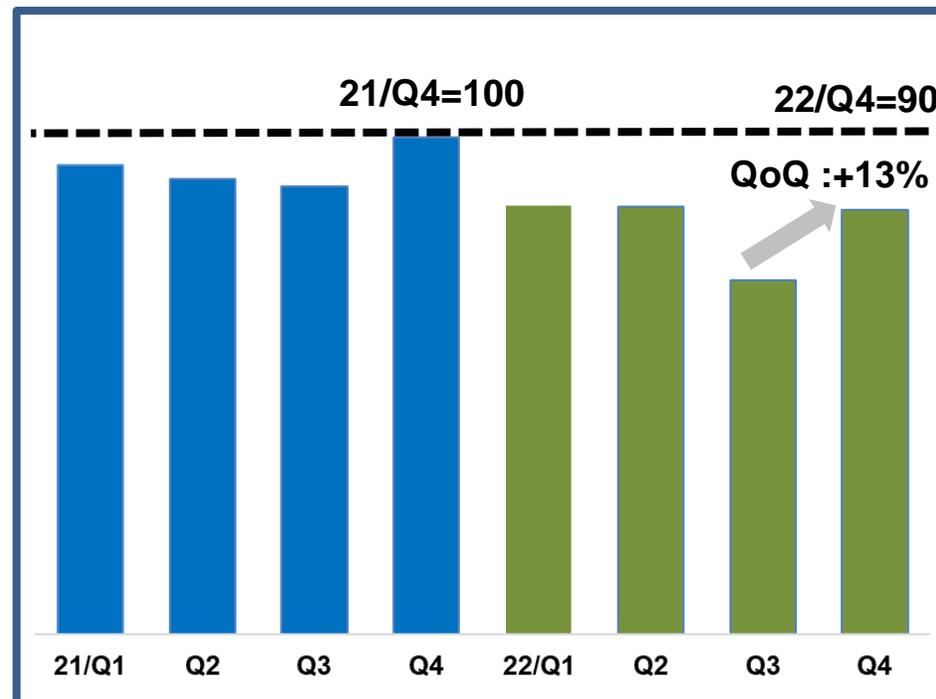
- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要

- P.24 2023年度 事業環境
- P.26 2023年度 業績予想
- P.27 2023年度 配当金予想

【国産ナフサ価格とエラストマー素材売上高推移】



【合成ゴム出荷量推移】



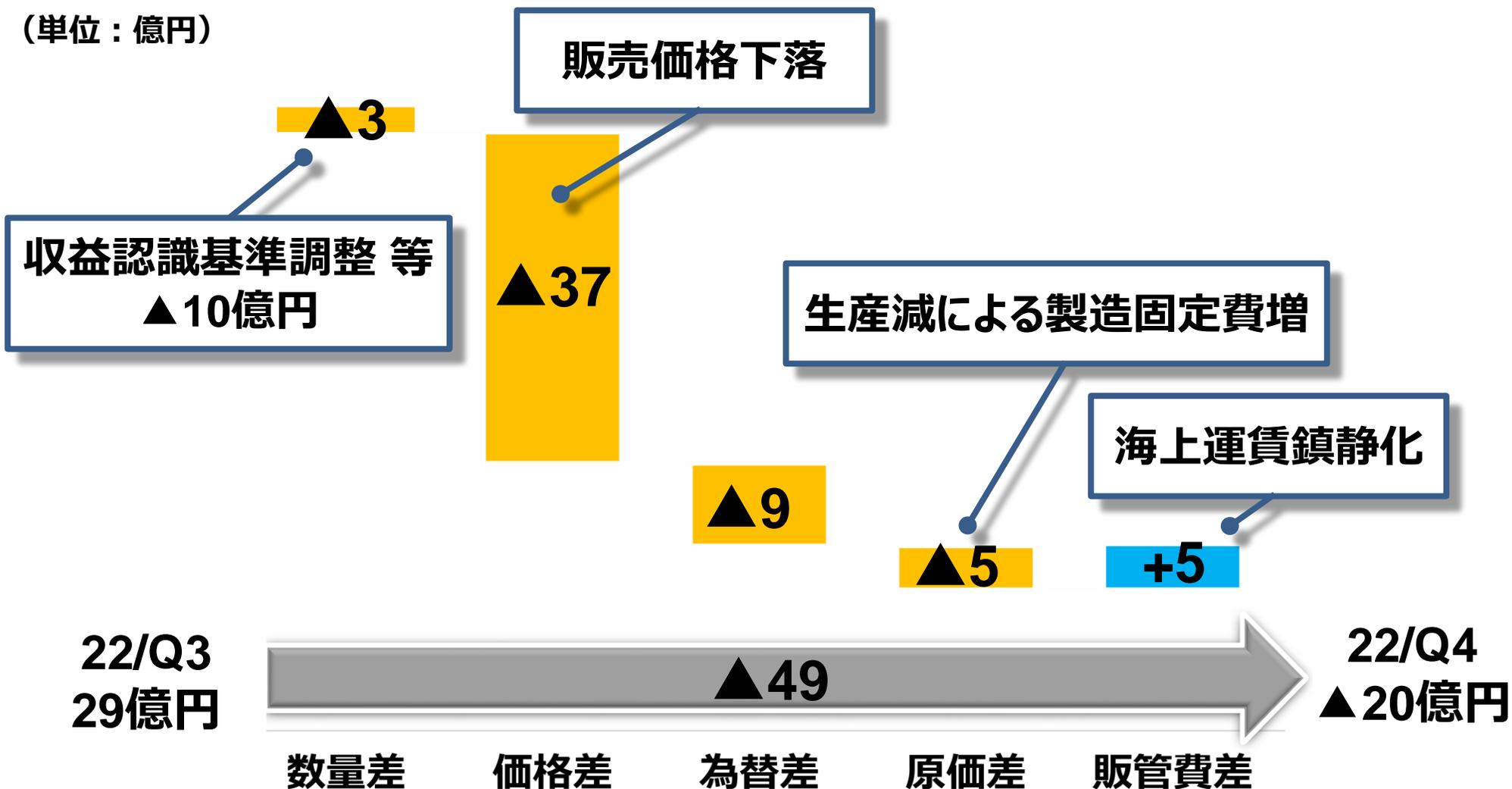
- 国産ナフサ価格に応じた販売価格改定により、売上高は減少
- 合成ゴムは主力工場の定期修繕による出荷調整でYoYは出荷量減
QoQは定期修繕を終え出荷量増

(単位：億円)	2021年度 Q4	2022年度 Q3	2022年度 Q4	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (21/Q4=100)	100	76	81	▲ 19 pt	▲ 19 %	5 pt	7 %
合成ゴム	100	80	90	▲ 10 pt	▲ 10 %	10 pt	13 %
ラテックス	100	73	59	▲ 41 pt	▲ 41 %	▲ 13 pt	▲ 18 %
化成品	100	66	71	▲ 29 pt	▲ 29 %	4 pt	7 %
売上高	526	559	549	23	4 %	▲ 10	▲ 2 %
合成ゴム	354	413	400	46	13 %	▲ 14	▲ 3 %
ラテックス	46	35	29	▲ 17	▲ 36 %	▲ 5	▲ 15 %
化成品	116	98	107	▲ 9	▲ 8 %	9	9 %
その他・消去	10	13	13	2	22 %	▲ 0	▲ 1 %
営業利益	27	29	▲ 20	▲ 47	▲ 175 %	▲ 49	▲ 170 %
営業利益率	5%	5%	▲4%				

- **出荷量** : 合成ゴムは前掲、ラテックス手袋向け流通在庫過多継続、化成品は粘着テープの流通在庫過多で出荷は冴えず
- **売上高・営業利益** : 原料価格に応じた販売価格の改定により、合成ゴムは通期YoYで増収増益、化成品は市況悪化で減収減益

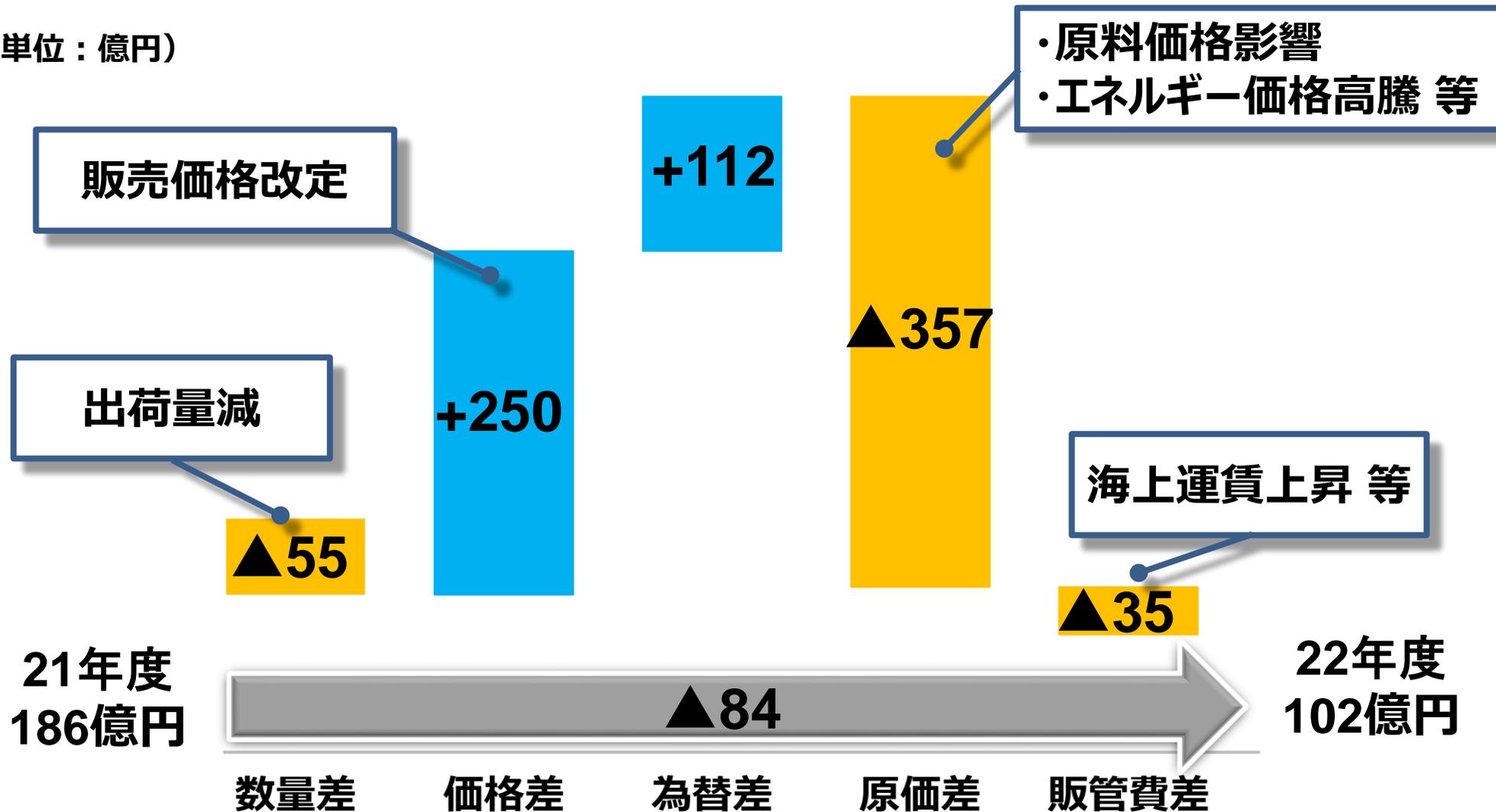
エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)



エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (YoY) ZEON

(単位：億円)



- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異

- P.14 **高機能材料 P/L**
- P.15 **高機能材料 営業利益差異**
- P.17 **高機能ケミカル事業：電池材料の状況**
- P.18 **高機能樹脂事業：光学樹脂の状況**
- P.19 **高機能樹脂事業：光学フィルムの状況**

- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要

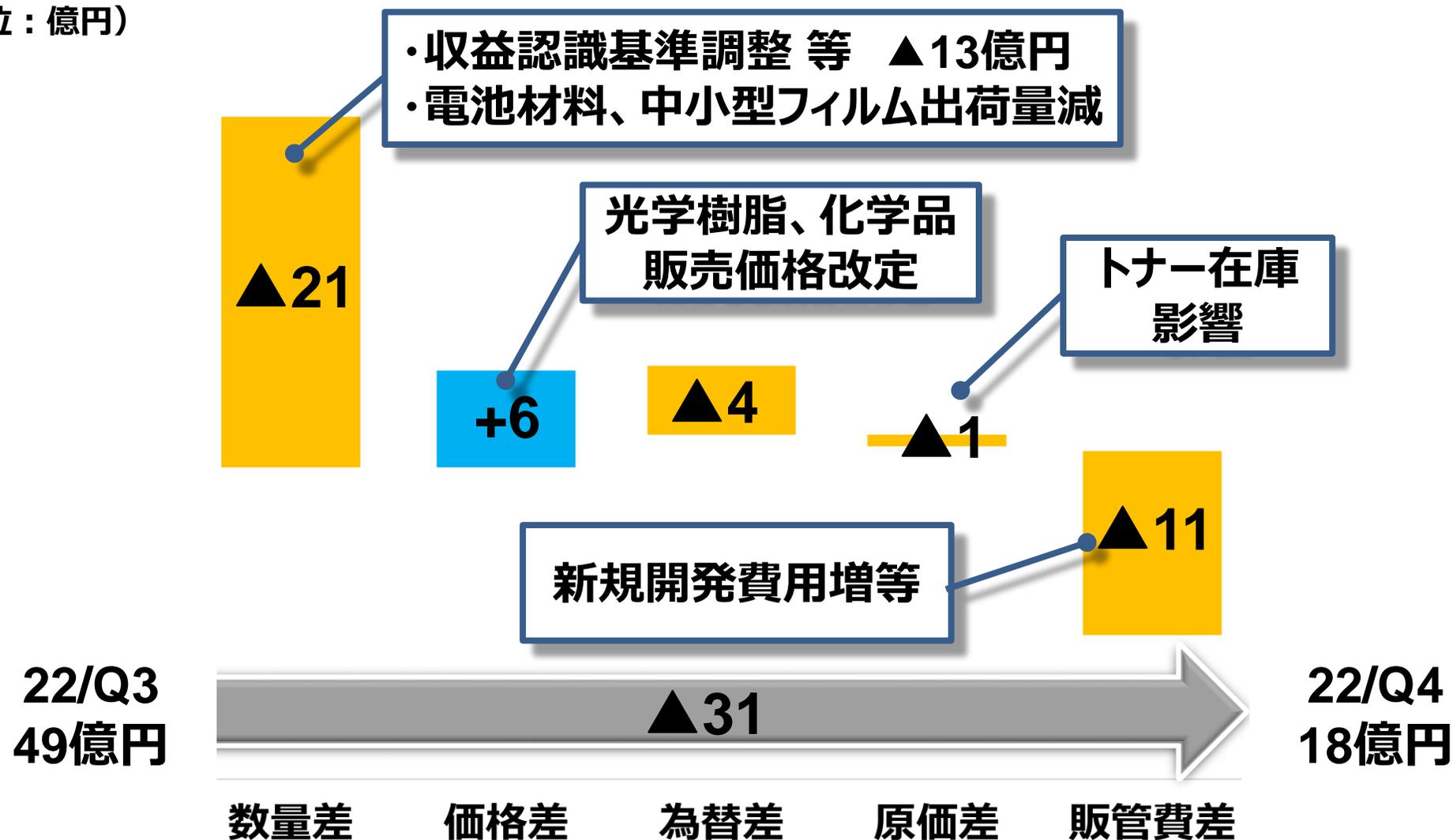
- P.24 2023年度 事業環境
- P.26 2023年度 業績予想
- P.27 2023年度 配当金予想

(単位：億円)	2021年度 Q4	2022年度 Q3	2022年度 Q4	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	265	249	239	▲ 26	▲ 10 %	▲ 11	▲ 4 %
※ 高機能樹脂	151	141	135	▲ 16	▲ 10 %	▲ 6	▲ 4 %
高機能ケミカル	101	96	95	▲ 6	▲ 6 %	▲ 1	▲ 1 %
メディカル他	14	12	9	▲ 5	▲ 35 %	▲ 3	▲ 27 %
営業利益	60	49	18	▲ 42	▲ 71 %	▲ 31	▲ 64 %
営業利益率	23%	20%	7%				

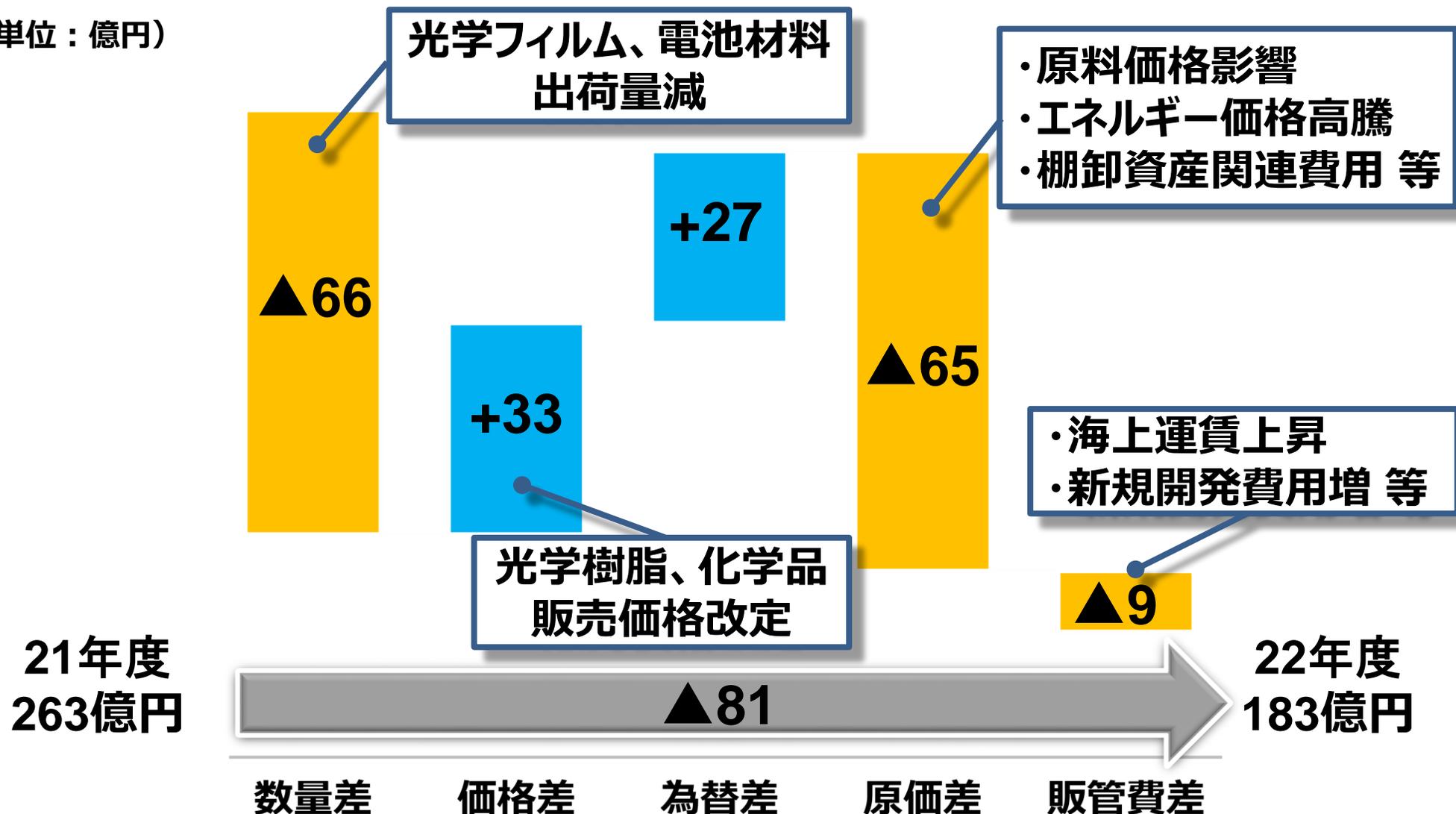
※ 高機能樹脂 : 光学樹脂、光学フィルム
 高機能ケミカル : 電池材料、化学品、電子材料、トナー

- 売上高
- 高機能樹脂 : 大型フィルムの出荷減でYoYは減収、QoQは出荷量増に応じ売上高は増加するも、収益認識基準の調整で減収
- 高機能ケミカル : テレワーク需要の一巡でトナー出荷量減によりYoYは減少、電池材料の売上高は顧客在庫調整で減少するも、連結調整の影響で横ばい
- 営業利益は電池材料の出荷量減、エネルギー価格および新規開発費用の増加等により、YoY・QoQともに減少

(単位：億円)



(単位：億円)



	YoY	QoQ	YoY累計
EV向け	69%	68%	110%
民生他向け	38%	35%	63%
全体	63%	61%	99%

■ EV向け

- 顧客在庫調整により、YoY・QoQともに出荷量減
- 在庫調整終了後の需要回復は23年度Q2からの見込

■ 民生他向け

- 中国春節による前倒し出荷の反動減
- モバイル端末向けを中心に、経済不況により需要振るわず、YoY・QoQともに出荷量減

	YoY	QoQ	YoY累計
光学用途向け	57%	81%	70%
医療その他向け	101%	142%	122%
全体	88%	125%	104%

■ 光学用途向け

- 経済不況により需要は低調に推移し、出荷振るわず

■ 医療その他向け

- 欧米向けを中心に需要は堅調
- 3Q出荷端境期からの反動増も重なり、YoY・QoQともに出荷量増

	YoY	QoQ	YoY累計
中小型向け	60%	68%	84%
大型向け	83%	160%	69%
全体	79%	135%	72%

■ 中小型向け

- 出荷の端境期および経済不況により需要は低調に推移し、YoY・QoQともに出荷量減

■ 大型向け

- Q2にTVメーカーの部材調達停止以降、出荷は段階的に回復し、YoYは出荷量減となるも、足元の需要は底堅くQoQは出荷量増
- 本格的な需要回復は23年度からの見込

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異

- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

- P.21 B/S概要**
- P.22 C/F概要**

- P.24 2023年度 事業環境
- P.26 2023年度 業績予想
- P.27 2023年度 配当金予想

総資産5,229億円 (+382)

【流動資産】 +217億円

- ◆ 現預金 ▲172億円
- ◆ 売掛債権 +11億円
- ◆ 未収入金 +27億円
- ◆ 棚卸資産 +344億円

流動資産

2,966

(+217)

固定資産

2,262

(+165)

【固定資産】 +165億円

- ◆ 有形固定資産 ▲44億円
- ◆ 投資有価証券 +194億円

【流動負債】 +219億円

- ◆ 買入債務 +38億円
- ◆ 短期借入金 +190億円
- ◆ 社債 ▲100億円

流動負債

1,606

(+219)

固定負債 230 (▲12)

純資産

3,393

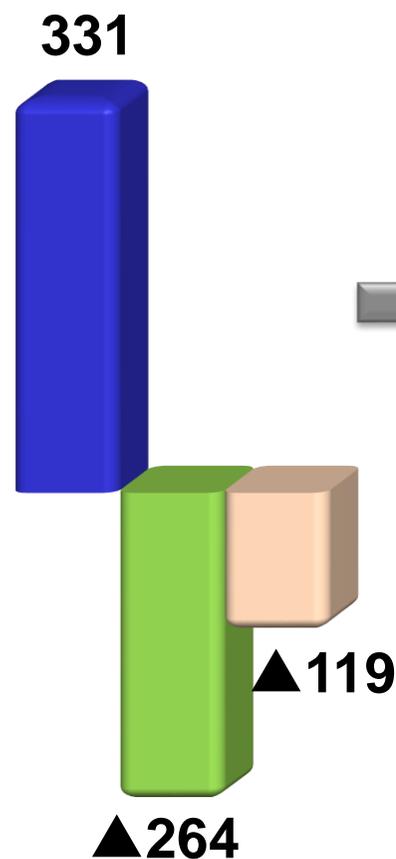
(+175)

【純資産】 +175億円

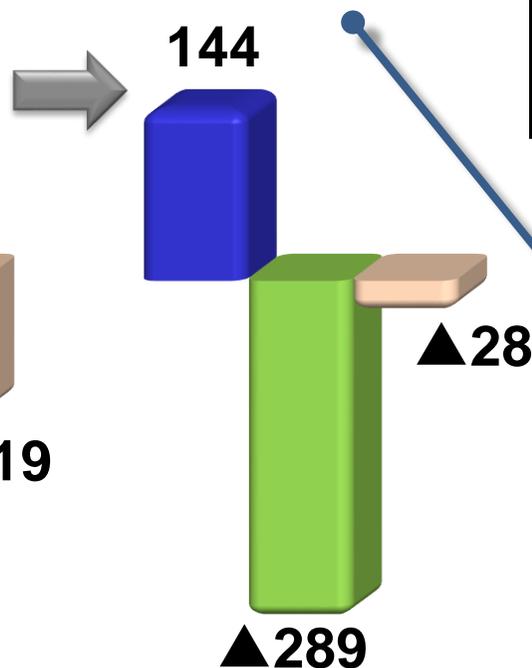
- ◆ 自己資本比率 64.3% (▲1.4)
- ◆ D/Eレシオ 0.08 (+0.02)

(単位：億円)

2021年度Q4



2022年度Q4



(単位：億円)

	2021年度	2022年度
営業CF	331	144
投資CF	▲264	▲289
フリーCF	67	▲145
財務CF	▲119	▲28
CF	▲52	▲174

- ・税前提利益 +145億円
- ・税金支払 ▲149億円
- ・減価償却費 +204億円
- ・棚卸資産 ▲311億円

■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異

- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要

- P.24 2023年度 事業環境**
- P.26 2023年度 業績予想**
- P.27 2023年度 配当金予想**

		2023年度				2023年度動向
エラストマー 素材	売上 予想		営利 予想			
	(億円)	上期	下期	上期	下期	
						23上期は22下期並み、23下期より需要回復
	1,045	1,135	17	48		22年度に対し、売上高▲42 営業利益▲37
合成ゴム						自動車市場は22年度並と見込むが、人員増に伴う費用負担増等で減益予想
ラテックス						手袋向け需要は22年度並みだが、事業構造を見直し営利改善予想
化成品						粘着テープ市場は期後半まで回復期待薄い 通期は22年度比で減収減益を予想

※2023年度上期の動向は2022年度下期比、2023年度下期の動向は2023年度上期比

高機能材料		2023年度				2023年度動向
		売上 予想		営利 予想		
(億円)	上期	下期	上期	下期	堅調な需要回復、および販売拡大を見込む	
	545	615	80	100	2022年度に対し、売上高+106 営業利益▲3	
光学樹脂					光学用途向けは下期以降回復、医療その他向けは堅調 上期に主力工場定修で出荷調整を予定	
光学フィルム					大型向け市場は21年度並みを見込む。大型新ライン 減価償却費増で短期的には通期で減益の見込	
電池材料					EV市場中心に出荷増を見込む	

※2023年度上期の動向は2022年度下期比、2023年度下期の動向は2023年度上期比

2023年度 業績予想

(単位：億円)

【売上高】

	2022年度 実績	2023年度 上期予想	2023年度 下期予想	2023年度 業績予想	業績予想 差異
エラストマー素材	2,222	1,045	1,135	2,180	▲ 42
高機能材料	1,054	545	615	1,160	+106
その他の事業、消去等	610	310	340	650	+40
売上高合計	3,886	1,900	2,090	3,990	+104

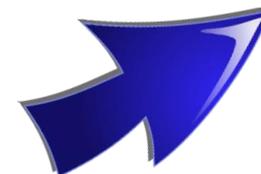
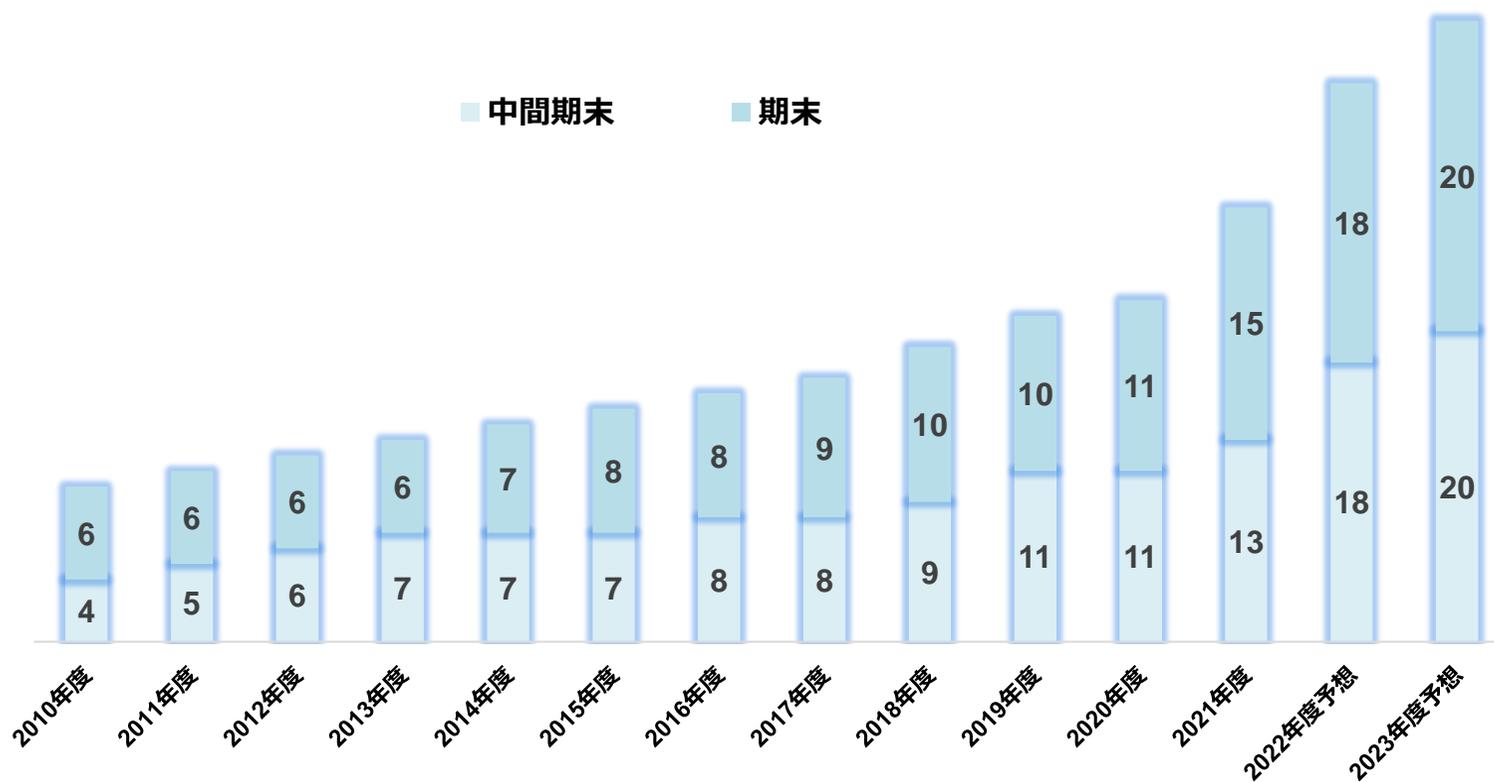
【営業利益】

	2022年度 実績	2023年度 上期予想	2023年度 下期予想	2023年度 業績予想	業績予想 差異
エラストマー素材	102	17	48	65	▲ 37
高機能材料	183	80	100	180	▲ 3
その他の事業、消去等	▲ 13	▲ 22	17	▲ 5	+8
営業利益合計	272	75	165	240	▲ 32

■ 年度業績予想を売上高3,990億円、営業利益240億円

・US\$=130円、€=140円、国産ナフサ=¥64,000、アジアブタジエン=US\$1,000

【配当金予想、単位：円】



安定的に継続的な
配当政策を継続
(方針に変更なし)

■ 2023年度の配当金は中間20円、期末20円、年間40円を予想
対前年度比+4円、2010年度から14連続増配予想

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

2023年度 Q1決算発表	2023年7月27日（木）を予定
中期経営計画 説明会	2023年6月7日（水） 午前中を予定

※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

ZEON

日本ゼオン株式会社

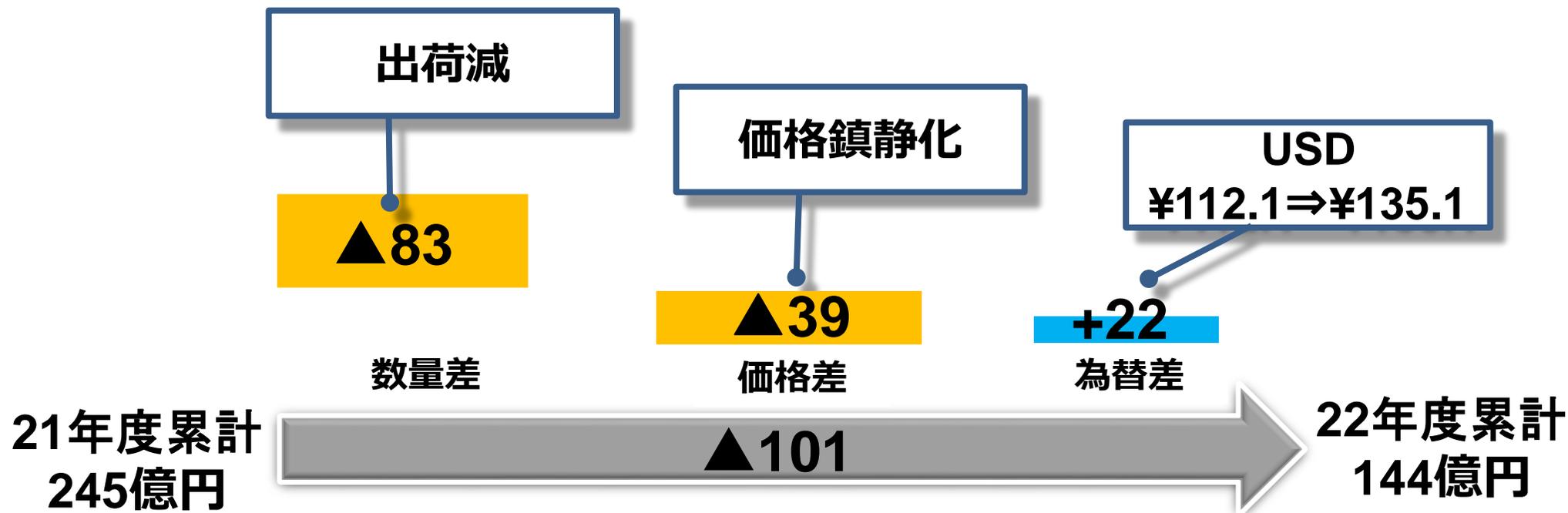
以上

統合報告書は[こちら](#)

事業	2022年度 (業績予想比)			差異要因
	出荷	売上 差異	営利 差異	
エラストマー 素材	—	+17	+2	
合成ゴム				出荷量増、為替影響により売上、営利ともに上振れ
化成品				出荷量増、為替影響により売上は上振れ 棚卸資産関連費用発生等により営利は下振れ
高機能材料	—	+4	▲7	
光学樹脂				収益認識基準調整により、売上、営利ともに下振れ
光学フィルム				大型の出荷量増・中小型の出荷量減で売上は符合、試作精査による販管費減で営利は上振れ
電池材料				在庫調整幅が拡大するも、連結調整影響で売上は上振れ、新規開発費用増で営利は下振れ

参考：ラテックス 売上高差異（YoY累計）

（単位：億円）



	2020年度 Q1	2021年度 Q4	2022年度 Q3	2022年度 Q4	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
--	--------------	--------------	--------------	--------------	-----------	------------	-----------	------------

単価

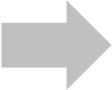
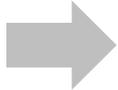
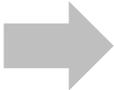
21/4Q=100		100	103	107	7 pt	7 %	4 pt	4 %
20/1Q=100	100	159	164	170	-	-	-	-

2022年度Q4 (2022年度Q3比)				
事業	出荷	売上	営業利益	QoQ差異説明
合成ゴム				<ul style="list-style-type: none"> ・主力工場定修終了により出荷量増 ・原料価格下落、円高による販売価格の下方改定により減収減益
ラテックス				<ul style="list-style-type: none"> ・手袋用ラテックス需要回復遅延により減収減益
化成品				<ul style="list-style-type: none"> ・QoQは出荷増となるも、粘着テープの流通在庫過多で出荷は冴えず ・原料価格下落、円高による販売価格の下方改定および棚卸資産関連費用発生等により減益

		2022年度Q4 (2022年度Q3比)				QoQ差異説明
事業	出荷	連結		単体 収益認識基準調整 なし		
		売上	営業利益	売上	営業利益	
光学樹脂						<ul style="list-style-type: none"> ・医療その他向けで出荷増となるも、収益認識基準調整等により減収減益
光学フィルム						<ul style="list-style-type: none"> ・大型向け出荷回復中、中小型向け出荷の端境期 ・中小型向け出荷量減により減収減益
電池材料						<ul style="list-style-type: none"> ・顧客在庫調整および中国春節によるQ3出荷前倒しの反動で出荷量減 ・連結調整影響で売上は横ばい ・出荷減、新規開発費用増等により減益

				2022年度 (2021年度比)		
事業	出荷	売上	営業利益	YoY差異説明		
合成ゴム				<ul style="list-style-type: none"> ・主力工場定修により出荷量を調整 ・原料価格・海上運賃高騰等に応じた販売価格改定で増収増益 		
ラテックス				<ul style="list-style-type: none"> ・手袋用ラテックス需要回復遅延により出荷量減、減収減益 		
化成品				<ul style="list-style-type: none"> ・需要振るわず出荷量は減少するも、原料価格、海上運賃高騰等に応じた販売価格改定で増収 ・原料価格、エネルギー価格高騰、出荷量減の影響で減益 		

		2022年度 (2021年度比)				YoY差異説明
事業	出荷	連結		単体 収益認識基準調整 なし		
		売上	営業利益	売上	営業利益	
光学樹脂						<ul style="list-style-type: none"> ・医療その他向け出荷堅調により増収 ・原料価格・エネルギー価格・上期の海上運賃高騰等により減益
光学フィルム						<ul style="list-style-type: none"> ・大型向け顧客生産調整、中小型向け巣ごもり需要一巡による出荷減で減収 ・原料価格・エネルギー価格高騰、出荷量減により減益
電池材料						<ul style="list-style-type: none"> ・顧客在庫調整により出荷量は横ばい ・連結調整の影響で増収 ・原料価格・エネルギー価格高騰、新規開発費用増により減益

用途	2023年度市況動向 (22年度比)	状況変化
大型TV		大型液晶ディスプレイ生産回復
スマートフォン		前年度並を見込む
タブレット		巣ごもり需要一巡により前年度並を見込む
ノートPC		同上

※2023年度市況動向は、当社予測に基づいた当社製品の22年度比販売見立て

アップサイド

エンドマーケット需要回復の早期化

為替の円安化

在庫調整終了の早期化

円安ドル高

景気回復

円安ユーロ高

ダウンサイド

エンドマーケット需要低迷の長期化

為替の円高化

在庫調整終了の長期化

円高ドル安

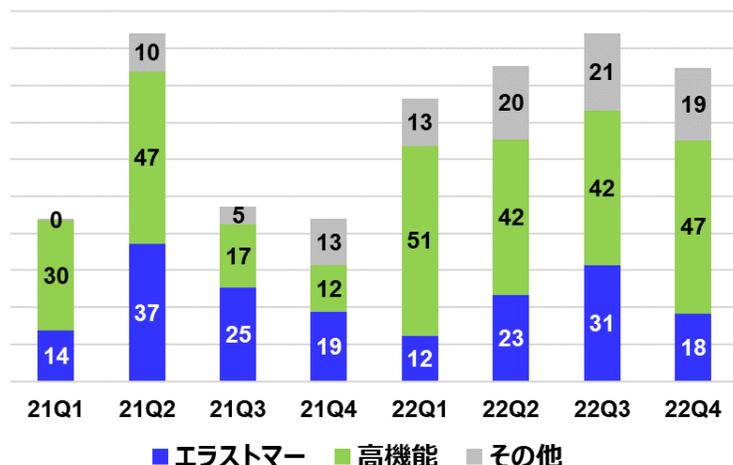
景気悪化

円高ユーロ安

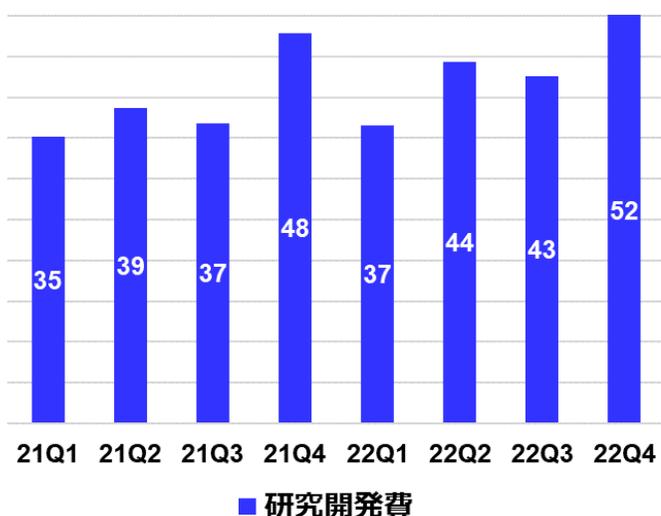
参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

【資本的支出】



【研究開発費】



21年度実績
229億円

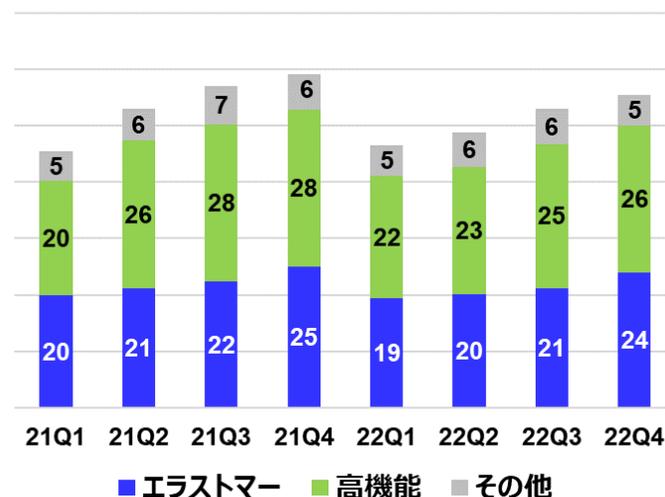


22年度実績
340億円



23年度予想
300億円

【減価償却費】



21年度実績
215億円



22年度実績
204億円



23年度予想
195億円

21年度実績
159億円



22年度実績
176億円



23年度予想
180億円